



浦幌ヒグマ調査会  
20周年記念講演会

ヒグマがいる・人が集う・人が育つ  
地域で学んだクマと自然と人との関わり  
浦幌で学び羽ばたいた学生たち

日時：2018年11月10日(土)13:00~17:00 (12:30開場)

会場：浦幌町コスミックホール（十勝郡浦幌町本町100）

JR根室本線浦幌駅下車、徒歩1分：帯広から約1時間、釧路から約2時間

参加費無料（事前申し込み不要）入退場自由

問い合わせ先：[urahoro\\_higuma@yahoo.co.jp](mailto:urahoro_higuma@yahoo.co.jp)

浦幌町立博物館（015-576-2009）

主催：浦幌ヒグマ調査会，浦幌町立博物館

後援：浦幌町教育委員会，十勝毎日新聞社，北海道新聞帯広支社，北海道新聞野生動物基金，

酪農学園大学環境共生学類





# 開催にあたり

2018年度に、浦幌ヒグマ調査会は活動20周年を迎えました。謎多きヒグマの生態をヒグマ目線で調べ、人との軋轢が増加した原因、駆除を続けても軋轢が減らない原因を明らかにすること、それらの成果を元に被害対策や普及啓発を行うことを目的に活動してきました。活動を支えてきた主戦力は大学生で、これまで実に多くの参加者を得てきました。多くの場合、初めてのフィールドワークをここ浦幌で経験し、ヒグマのことはもちろん、地域に暮らす方々の暮らし、ヒグマと人・地域との関わりを学び、野生動物との共存や地域の被害管理には多様な視点があることを実感し、そしてそれぞれの進路へと巣立っていきました。浦幌町の様々な立場の方々の支援の元、調査研究・普及啓発・被害対策を軸に続けてきた活動は、気がつけば野生動物の保全や管理に直接・間接に関わる人材育成の場として、机上では身につけることのできない濃密な現場体験を提供し続けた20年でもあったのです。そこでこの機会に改めて、当会での活動経験を元に巣立った人材の声を中心としたシンポジウムを開催し、地元浦幌で当会活動を支援してくれた方々に各地で活躍する様子を紹介し、さらには今後の人材育成の場としての当会・浦幌町の役割、さらに地域NGOが果たす役割を考えます。

## 第1部 ～浦幌からはじまるヒグマ調査～

開会/主催者挨拶：佐藤芳雄（浦幌ヒグマ調査会）

趣旨説明：佐藤喜和（酪農学園大学）

- 1：新型電気柵未だ成らず ～上浦幌のビート畑で学んだクマの力、人の力～  
浦田剛（占冠村役場農林課林業振興室）
- 2：浦幌での10年間、シカが増えてヒグマはどう変わった？  
小林喬子（（一財）自然環境研究センター）
- 3：浦幌で知った地域で続ける大切さ ～クマの棲む森の研究を通して～  
嶋崎暁啓（認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク）
- 4：～広がる人生～ ヒグマの保全遺伝学的研究と思ひ出うらほろ  
伊藤哲治（株式会社 野生動物保護管理事務所）

## 第2部 ～浦幌から白糖丘陵へ～

- 5：背擦られるか？背擦りトラップの試行と白糖丘陵のヒグマ  
中村秀次（NPO法人EnVision環境保全事務所）
- 6：～浦幌から飛んだ種～ 道南八雲で生きる浦幌の学び  
鈴木晋悟（八雲町役場農林課林業係）
- 7：背擦りトラップに訪れる親子グマ ～子グマの数は何頭？～  
石橋悠樹（島根県西部農林振興センター益田事務所）
- 8：～オスは背中語り、メスは鼻で応える～ 背擦りから嗅覚コミュニケーションへ  
豊島尚章（酪農学園大学野生動物生態学研究室）

## 第3部 ～そしてこれから～

- 9：～ヒグマの顔だけでオス・メスが分かる！？～ 浦幌での経験から職場へ  
鈴木輝（北海道庁環境生活部環境局生物多様性保全課工ゾシカ対策グループ）
- 10：浦幌での二年間、そして今  
野村賢人（北村林業株式会社）
- 11：20年の総括 そして今後の展開  
佐藤喜和（酪農学園大学）

